

震災復興と文化・自然・人のつながり

—岩手三陸・大槌の取り組みから—

平成23年3月11日の東日本大震災では、およそ2万人もの尊い命が失われました。その鎮魂の思いを胸に秘めながら、被災地では復興への歩みが進んでいます。

瓦礫の撤去、道路の復旧、仮設住宅、移住計画、防波堤の建設などハード面での計画が進む一方で、人々の暮らし・コミュニティ、文化面での再建も重要視されています。

とりわけ豊かな自然・伝統文化を育んできた東北地方、三陸地域一帯は、祭りや、神楽などの郷土芸能が人々の日々の暮らしと深く結びついて継承されてきたところであり、そうした文化的な力があらためて震災復興の過程においても再生の原動力として見なおされています。また防災面では、かろうじて被災を免れた神社やお寺などの施設が、避難所としての機能を果たしたことや、そのコミュニティ・地域文化の結節点としての役割を再評価される動きもあります。

こうした現状に着目しながら、本フォーラムの第1部では、伝統文化・歴史・自然に基づいた東北復興の可能性について、第2部では復興に向けた具体的な取り組みについて岩手県大槌町での事例を中心に経験や諸課題を広く学ぶ場としたいと考えています。

プログラム

第1部 基調講演 10時00分～11時50分

「震災復興に伝統文化の力をどう活かすか？」

—郷土芸能と人々の暮らし—

小島美子 (国立歴史民俗博物館名誉教授)

「逆境に立ち向かう」

—震災からの復興に自然と歴史と文化を—

佐々木健 (岩手県大槌町教育委員会生涯学習課長)

司会

茂木栄 (國學院大學神道文化学部教授)

第2部 個別報告 13時00分～17時45分

「避難所の口伝とともに」

十王館勲 (大槌稲荷神社禰宜)

「後方支援者としての神社・神職」

佐藤一伯 (御嶽神明社禰宜)

「つくる つながる つどう —明日への一歩 希望の針—」

吉田律子 (真宗大谷派僧侶、サンガ岩手代表)

「地域の自立を支える中間支援とは？」

小野仁志 (いちのせき市民活動センター長)

コメント

「支援する側・うける側の境界を越えるとは」

板井正斉 (皇學館大学現代日本社会学部准教授)

全体討論

司会

黒崎浩行 (國學院大學神道文化学部准教授)

古沢広祐 (國學院大學経済学部教授)

■日時：2月17日(日) 10時00分～17時45分

■場所：國學院大學AMC棟1階 常磐松ホール

※渋谷駅から徒歩約15分。または、都営バス 渋谷駅東口バスターミナル54番 学03 日赤医療センター行「國學院大學前」下車。

■お申込方法：國學院大學研究開発推進機構ホームページ (<http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/index.html>) の本フォーラム記事をご覧ください、ホームページ上のフォーム(下記URL)をご利用の上、お申込下さい。

<https://www7.kokugakuin.ac.jp/inquiry/?code=34915>

郵便番号・住所・氏名(フリガナ)・電話番号・「震災復興と文化・自然・人のつながり」の旨を、フォームの本文に明記の上、送信して下さい。

※承った個人情報は、本学が主催するイベントに関する案内にのみ使用します。

■参加費：無料(先着250名)

※お申込を受け付けた方には、メールの返信はいたしません。

■お問い合わせ先：國學院大學研究開発推進機構事務課

〒150-8440 東京都渋谷区東4丁目10-28 TEL:03-5466-0162

FAX:03-5466-9237 E-mail:kikou@kokugakuin.ac.jp